



Title	モンゴル研究会活動報告（2006年度）
Author(s)	
Citation	モンゴル研究. 2007, 24, p. 67-67
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/102334
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

モンゴル研究会活動報告 (2006 年度)

■モンゴル研究会7月例会&第2回卒論発表会

日時：2006年7月30日(日)

場所：日本ユーラシア協会会議室

報告者および報告テーマ：

第1部 教育と国家

- ・「社会と教育の関係」 大阪外大4年 水嶋育美の卒論の報告
- ・「教育現場から見た戦後の教育政策の変遷と教育基本法改正」大阪外大OB 北陽高校英語科教諭 松岡正喜の教育現場からの報告

第2部 音楽と国家

- ・「モンゴルの近現代音楽史」 大阪外大4年 青木隆紘の卒論の報告

第3部 自己紹介・近況報告～グループディスカッション 16:30～

■モンゴル研究会12月例会&第4回卒論中間報告会

日時：2006年12月23日

場所：大阪外大B棟2階学術交流室

報告者および報告テーマ：

- ・青木隆紘「モンゴル近現代音楽史と音楽による政治的影響」
- ・田中良枝「モンゴルと日本の比較宗教史」
- ・藤井麻世「ウランバートルの今を生きるシャーマンたち―役割の変化と文化交流―」
- ・西田奈保「モンゴルにおけるトナカイ遊牧民ツアー」
- ・足立史織「モンゴルにおけるミレニアム開発計画の現状と第三ホローの住民の取り組み」
- ・清本あゆみ「モンゴルの貧困と性感染症患者増加について」
- ・三宅晶子「韓国人男性と結婚したモンゴル人移住女性の現状」
- ・西脇依理「モンゴルで働く中国人の現状」
- ・水嶋育美「現代の日本とモンゴルにおける国家と教育の関係」
- ・嶋岡宏樹「モンゴル国における行政区画の変更について―日本の市町村合併から考える―」

■モンゴル研究会2月例会&2006年度卒論合評会

日時：2007年2月12日

場所：大阪外大B棟2階学術交流室

報告者および報告テーマ：

- ・青木隆紘「モンゴル近現代音楽史～音楽の政治的利用の観点から～」
- ・田中良枝「モンゴルと日本における仏教をめぐる政治権力と聖職者と民衆の関係性―そして今」
- ・藤井麻世「ウランバートルの今を生きるシャーマンたち―活動形態の変化と潜在的可能性について―」
- ・西田奈保「モンゴルにおけるトナカイ遊牧民ツアー―ツアータンの社会問題を観光で考える」
- ・足立史織「モンゴルにおけるミレニアム開発計画の現状と第三ホローの住民の取り組み」
- ・清本あゆみ「モンゴル政府のHIV対策の問題点」
- ・三宅晶子「韓国人男性と結婚したモンゴル人移住女性の現状」
- ・西脇依理「モンゴルで働く中国人の現状～問題点と政策提言～」
- ・水嶋育美「現代の日本とモンゴルにおける国家と教育の関係を愛国心と社会情勢から考察する―日本の未来とモンゴルへの提言―」
- ・嶋岡宏樹「モンゴル国における行政区画の変更について―日本の市町村合併から考える―」

(以上敬称略)

* * *

今年度も今岡ゼミとモンゴル研究会合同で例会を開いた。6月は、社会人と学部生が同じテーマで発表し、お互いに学びあうことができた。卒論の中間報告会は、卒業生の参加が多く、同じゼミの後輩のその後の取り組みを見守りながらも、まだ勉強を続けたいという社会人の受け皿となっている。卒論の合評会は、一年間ゼミで学びあった同級生が、優れた論評をすることに驚かされた。卒業論文は書くだけでなく、友人が本当に明らかにしたかったことがどう書かれているか、という観点から読むことまでやってみて、完結することによって気付かされた。卒論の発表会や合評会は、モンゴル語の卒業生だけでなく、留学生、市民、他大学の学生にも公開し、参加していただいた。様々な経験を積んだ人が集まると、議論が豊かになる。この方式は、来年度も続けたいと思う。

(今岡 良子)